

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ご家族へは面会に来られた時やお電話を頂いた時などに会話の中に盛り込んだり、年に1～2回は毎月の送付文書と一緒に同封したりしている。 地域の方々へも理解していただけるような取り組みをしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所の方々とは毎日挨拶程度ではあるが声を掛け合っており、気軽に立ち寄っていただけるように声はかけている ご近所の方が気軽に遊びに来て頂けるような取り組みをしていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	出来ていない		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないと思うものの日常的な業務に追われた中で故意ではなくても利用者様にかかる言葉遣いや待たせてしまう行為も本来利用者様にとっては虐待になっているのではないかと思う	○	きちんと学ぶ機会を設けていかなければならないと思う。また日ごろの何気ない言葉遣いにも気をつけて取り組まなければと思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込の際や、緊急に入院などする必要のあった場合、また体調の不安定な時期などご家族の不安のないように説明や相談に応じている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は職員に不満や苦情があれば言ってください。言えない方は職員が表情の変化や体調の変化にすぐ気づけるよう取り組んでいる。	○	外部者へ表せる機会を設けられるようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に報告している。定期の報告のほかに各受持ち職員からのコメント、活動写真なども入れている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が何でも遠慮なく言える雰囲気は作っているが、現在は受持ち制を充実させ受持ちに何でも相談していただけるよう信頼関係作りを力を入れている。	○	外部者へ表せる機会を設けられるようにしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間はかかるが、何度も相談する中で聞き入れてくださる場合もある	○	取り組んでいただきたいと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員間でその必要性があった場合臨機応変に対応できるよう協力体制が出来ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動の必要性も理解できるが、異動が多く入居者様には当然負担を強めている。現場サイドの希望が叶い難い現状である。	○	利用者様のことを考え配慮していただけるように相談していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の案内はあるものの希望者(学習意欲のある職員)が受けられないこともあり残念に思う。	○	学習意欲のあるスタッフが希望する研修を受けられるような体制が取れるよう相談していきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない	○	取り組む必要性が高いと思うので機会が持てるよう取り組み質の向上に努めたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内でレク活動など取り組まれてはいる	○	ストレスの感じ方は職員個々で違うので軽減するための工夫や環境作りは現場で働く職員同士で考えていく必要があると思う
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	要望に耳を傾けるよう努力している	○	個々人の希望や要望をもっと細やかに聞き取れるよう、受持ちを中心に信頼関係を築き取り組んでいきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前や利用初期段階では相談窓口や管理者またはユニット責任者対応になっている。入居前段階では十分に話し合い互いに理解できるよう努めている	○	今後は入居初期の段階より受持ちを決めご家族が相談しやすい雰囲気を作っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	相談自体は法人内の窓口が多いためこの項目自体はして いないといえる		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	入居段階では徐々に馴染んで貰えればという方向で開始し た。また入居前には事前に訪問しまず顔なじみの段階から 開始してきた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	出来ること(料理・洗濯・掃除など)を一緒にやり、楽しみを 共有した生活作りの中で支えあう関係を築く努力をしている	○	センター方式を取り入れながら、その人本位の生活がより 現実的に実現できるようご家族との連携・信頼関係を築き ながら取り組んでいきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	入居当初ご家族が出来る支援をお聞きし、出来る範囲でご 家族にも参加していただいているが、遠方のご家族や、な かなか訪問されないご家族との連携が不十分である	○	センター方式を取り入れることで、職員とご家族が話したり 相談しあえる機会をもちご家族と二人三脚で入居者様を 支えていける環境を作り出したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せず利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	関係は把握できているが個々人の個性が強く小さなトラブル は頻繁にあるが、職員が間に入り上手く調整している	○	個性の強さを活かし利用者様の良い面に視点を当て利用 者様同士が楽しく関わりあえる様な支援をしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までこの項目の事例がないが、どのような場合でもご縁のあった方々とのお付き合いは大切にしていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分とは言い切れないが本人の希望や意向に極力副えるように職員間で話し合い努力している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れようとしている段階であり、少しずつではあるが把握に努めている	○	まだセンター方式も取り入れたばかりの段階であり、職員もようやく関係が出来てきた段階なので、この一年でしっかり情報収集と関係作りに取り組んでいきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の食事の摂りかた、バイタル測定、表情や活動への参加意欲など細やかに現状把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日利用者様の事を話合っているものの、日々の対応に追われてしまっており、ケースカンファレンスやケアプランの重要性を職員全体に浸透させられていないため、十分に取組んでいない現状である	○	受持ち制を機能させ、担当がその人本位の介護計画をたてられるように現在取り組み中である
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行っているが、急変時などにおける現状に即した新たな計画作成は追いつかない現状である	○	その都度変化に応じてタイムリーに方向性を見定めご家族や必要に応じて主治医にも意見をいただき計画作成できるような体制にしておきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への日々の様子の記録は出来ており、全職員が目を通すため記録の共有は出来ている	○	介護計画に関しての日々の記録に繋がっていないケースも多いため、記録の仕方も徐々に学べるよう取り組み、しっかり情報共有をした上で介護の実践・見直しに活かしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GHで出来る範囲の支援は出来ている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ、年2回の防災訓練(消防)、小・中・高生の職場体験やボランティア活動の受け入れなど実施している	○	十分に協力しながら出来ているとは言い難いので、他機関との連携を図っていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	出来ていない	○	デイサービスや地域のいきいきサロンなども利用できるのであれば参加し、GH内だけの生活だけでなく、地域の方々と触れ合う機会を増やして差上げたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	出来ていない	○	地域包括センターも出来たばかりで具体的にどのように協働していけるのか分からない段階である
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に迫られた方に対しては主治医と相談し他専門医療機関を受診している	○	脳CTなど適時診断できるように他院との連携も築き本人もご家族も安心できるよう支援していきたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携で週1回定期的に同じ看護師の訪問があり利用者様も職員も気軽に相談できている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	実施している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族や主治医とはその都度相談し協力を得ている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	見取りを経験させていただいたが、ご家族や主治医との連携、また職員の不安の軽減、他利用者様への影響のないようにとGHとして今後しっかり見極めた上での終末期の対応を検討する必要がある
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	GHからの退去事例は現在のところないが十分に検討する必要がある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの配慮には努めているものの、言葉遣いなど不十分な面もある	○ 馴染みの関係作りは大切だが、言葉遣いにも馴れ合いが出来てしまっているのではと思えるときがあり、ミーティング時に気をつけるよう話合っているが、より徹底しなければと感じている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自由に過ごせる雰囲気はあり、ほとんどは自分のペースで過ごされる。出来ない方へは職員が支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も希望に応じられるよう努力はしているが、入浴や外出に関する希望では時に我慢していただく場面もある	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容室は各自違うので行きつけの所にお連れしたり、職員が散髪したり希望に応じられるように支援している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている場合と出来ていない場合がある	○ 食事作りなどもう少し職員側からも働きかけ一緒に作る楽しさを提供していきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間にはコーヒー・紅茶・他など希望を聞いたりするがおやつは体重増加や血糖の高い人なども配慮している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを使用している方はいないが、失禁が多くリハビリパンツや尿とりパッドを使用している方が半数はいらっしゃるが、さり気ない声かけや、夏場だけでもパッド外しが出来るようにと取り組んでいる		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番に入りたい希望の方が重なったり、お風呂の順番が気になりそわそわされる方がいらっしゃるとうる程度不公平のないように順番を決めてしまっている現状である		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない日は無理に休んで貰おうとせず一緒にお茶を飲んだり寄り添ったり様子を診ながら対応をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	十分に出来ているとはいえないが、ドライブや散歩・買い物などの屋外活動やレク活動など皆さん好きなので楽しんでいただいている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解しており、ご家族もホームへの預かり金とは別に個人にお金を渡されているが、自分の持っているお金で買物をしようといわれる方はほとんどなく、職員に買物を依頼される場合が多い	○	買物に行く際はお金を持っていただき買物をしていただく機会を設ける
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など出かけたり、隣のユニットに遊びに行ったりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天気の良い日はドライブに出かけたり、月1回は全員で季節の花見やピクニックに出かけたり、温泉にいったり、外に出ることの好きな方ばかりなので出かける機会も多く設けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話を持っておられる方もある。また希望に応じてはこちらからかけて差し上げたり、かかってきたときに対応している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や馴染みの方の訪問はいつでも出来るようにしている。訪問された時はリビングや居室でゆっくり過ごしていただいている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今現在身体拘束はしていないし、してはいけないことを職員はよく理解している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は利用者様本人が鍵をかけられるが職員はかけることはない。また夜勤者が独りになるまでは玄関にも鍵はせず無断外出があるときには見守りまた一緒に外へ出かけるようにしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は常にしているが、居室にて介助中であつたり職員の手がふさがった時などに外へ出てしまわれるケースもあり対応を常に考えている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性があるものに関しては手の届かないところにおく場合もあるが、大抵は見守りで対応できている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々人の状態に応じ取り組んではいるものの予測不可能な行動をされたり、拒否が強く対応しきれない場合もある	○	行方不明に関してはご家族にも相談したり、可能性のある方に対して個々にマニュアルを作る予定である

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回は防災訓練時救急治療法などの講習を受けている。また書籍も置いており夜勤帯など時間のあるときには読んでいる		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練と入居者様の避難方法などは状態に応じて考慮している。	○	地域の方々の協力をいただけるように働きかける必要と、地域合同の防災訓練など実施できればと思う
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族に対しては予想できるリスクについては入居当初よりお話している。	○	今後は、受持ちと面談を通しながら状況に応じたリスクと対応などについても説明し理解していただけるよう取り組みたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル的なことから便秘や下痢症状、表情の変化・動きなど小さなことから普段と違うことはないか情報の共有を行い、必要に応じて早めに主治医への相談も行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬は、ノートに記入し全員が確認できるようにしている	○	職員全員が全利用者の処方薬の把握は出来ていないが、薬ファイルを作っているので各自関心を持って目を通すようにしていきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす悪影響を大抵の職員は把握してはいる、そのために薬に頼る前に水分や食事、運動なども視野に入れ働きかけている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立されている方には個々人の習慣もあるため現在は介助や声かけの必要な方に対する支援になっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しているが、無理強いは出来ない。食の細い人には分食で提供したり、高カロリー飲料水など個別対応している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいの励行・毎朝の手すりやイス・ソファなど共有空間の消毒、換気など実施している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の確認・消毒・手洗い・冷蔵庫の掃除など注意しながら行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物のつくり自体少し親みにくいようにも感じるが、プランターに花を植えたりはしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室は三枚戸になっており開閉の仕方で不快な音になる可能性もある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りがしにくい空間であるが思い思いに気の合った利用者同士過ごしておられる	○	空間の仕切りを考え広い空間でも居心地の良い場所作りをしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	GH側は居室の空間のみの提供であり入居後ご家族が必要なものを準備して下さって入るが、ご自宅で使い慣れたものはご自宅に帰られたときに必要なこともあるため多くは置いておらず。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の換気扇は常に活用し掃除の都度窓を開けたりして換気には十分配慮している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体変化に応じて対応できるようにしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々人の身体状況や認知症の状態に応じて臨機応変に対応できるように利用者様のまだ出来ることをとりあげず時間が多少かかってもゆっくり待つ姿勢で対応するように取り組んでいる		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスにイスやベンチを置いていつでも外の空気を感じれるようにしたりプランターに花を植え楽しんでいただけるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある
		<input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/> ③たまにある
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input checked="" type="checkbox"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月1回は利用者様・職員全員でピクニックやドライブなどの屋外活動を取り入れ利用者様との記念撮影が恒例となり思い出を共有しています。まだ2年目で職員と利用者様・ご家族との関係作りはこれからですが利用者様のお元気な姿と素敵な笑顔を引き出せる楽しいホーム作りを目指しています。